

CASBEE[®] 京都-新築

標準システム

■ 使用評価マニュアル: CASBEE-京都-建築(新築)2018年版 使用評価ソフト: CASBEE京都-新築2018 (v.1.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	新行政棟・文化庁移転施設	階数	地下1F,地上6F
建設地	京都市 上京区 下立売通 新町西入 藪ノ内町	構造	S造
用途地域	商業地域, 準防火地域	平均居住人員	510 人
地域区分	6地域	年間使用時間	XXX 時間/年(想定値)
建物用途	事務所	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2021年12月 予定	評価の実施日	2020年1月29日
敷地面積	41,676.32 m ²	作成者	日本設計
建築面積	1,619.95 m ²	確認日	
延床面積	9,280.62 m ²	確認者	



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.5 ★★★★★

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安を示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質 **Q のスコア = 3.5**

Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.1

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.6

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 4.1

LR 環境負荷低減性 **LR のスコア = 3.2**

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.7

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 2.7

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.1

3 設計上の配慮事項

総合	その他
<ul style="list-style-type: none"> ・歴史的建築物として相応しい保存活用モデル ・3階軒レベルを統一し、新旧2つの建物を繋ぐ ・周辺街区・府庁街区の景観的調和を重視する ・文化庁エリアの独立性・シンボル性を表現する 	<ul style="list-style-type: none"> ・歴史的建造物の保存活用
<h4>Q1 室内環境</h4> <ul style="list-style-type: none"> ・各階四周に設けた庇・スクリーン・ルーバーによる日射遮蔽 	<h4>Q3 室外環境(敷地内)</h4> <ul style="list-style-type: none"> ・緑地の整備 ・市街地景観整備条例に基づく特例認定の取得
<h4>LR1 エネルギー</h4> <ul style="list-style-type: none"> ・太陽光発電パネルの採用 	<h4>LR2 資源・マテリアル</h4> <ul style="list-style-type: none"> ・節水型器具の採用
	<h4>LR3 敷地外環境</h4> <ul style="list-style-type: none"> ・庇、スクリーン、ルーバーによる反射光の抑制

■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■ Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■ 「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■ 評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される